

望中浮玉勢崔嵬 得対名山第七回

風伯多情解相送 峭帆一瞥過江来

【読み】

望中（ぼうちゆう）の浮玉（ふぎよく）勢（いきお）い崔嵬（さいかい）たり 名山に對し得ること 第七回なる
風伯（ふうはく）多情にして 相（あい）送るを解（かい）す 峭帆（しょうはん）一瞥（いちべつ）して江（こう）を過
ぎて来（きた）る。

【意味】

視界の中に浮かぶ浮玉山、その雄大な姿は険しくそびえている。この名山に向き合うのも、もう七度目の旅だ。
風の神は情け深く、私の旅立ちを静かに見送ってくれる。鋭く上がった帆の船が、ちらりと姿を見せたかと思えば、すぐに
揚子江を越えてこちらへ向かってきた。

*望中…望む視界の中。目の前の光景。

*浮玉…浮玉山

*崔嵬…山が高く険しいさま

*風伯…風の神。風。

*多情…情け深い

*解相送…相送（見送り）を心得る。見送ってくれる。

*峭帆…鋭く上がったような帆。帆がピンと張っている様子。

*一瞥…ちらりと見ること

【出典】 渡揚子江 （寅保・清）